

高等学校・衣生活分野における問題解決的学習

那須のぞみ^{*1}・伊波富久美^{*2}・山村季代^{*3}

Problem-solving Learning in the Field of High School Clothing and Life

Nozomi NASU^{*1} and Fukumi IHA^{*2} and Toshiyo YAMAMURA^{*3}

I. 研究課題

令和2年度の小学校、令和3年度の中学校に続き、高等学校でも令和4年度から高等学校学習指導要領（平成30年告示）（以下、「新学習指導要領」）が学年進行により実施される。各学科に共通する教科としての家庭科（以下、「家庭科」）においては、「よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力」の育成を目指して、目標が「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に沿って示された¹⁾。これらが偏りなく実現できるようにするためには、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、これら3つの柱を相互に関連させることにより、家庭科の学習全体の資質・能力を育成することが重要である。そのためには、“生活の課題発見”から“解決方法の検討・計画”“課題解決に向けた実践活動”“評価・改善”という一連の学習過程の中で、家庭生活や地域の生活の中で活用できる知識及び技能の習得、生涯を見通して生活の課題を解決する力や生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を評価し、生かす場面を精選しながら位置付けることが重要である。

これまで勤務してきた高校においては、問題解決的学習として全生徒が主に夏季休業中にホームプロジェクトに取り組んできた。しかし、授業時数の不足や生徒自身が生活面においての問題意識が芽生えにくいなどの理由により、生徒が主体的に実践できていたとは言い難い。

そこで、本研究では、新学習指導要領の衣生活分野及び、問題解決的学習の小・中・高校の関連をふまえた上で、衣生活に関する一連の学習に課題発見の過程を組み込み、振り返りから改善への過程を充実させた問題解決的学習の授業構想について検討する。

^{*1}宮崎大宮高校 ^{*2}宮崎大学大学院教育学研究科

^{*3}文部科学省初等中等教育局 教育課程課

II. 研究内容および研究方法

1. 小・中・高校の衣生活分野における関連と学習過程

小・中・高校の衣生活分野における学習内容および学習過程の関連について『小学校学習指導要領（平成29年告示）』²⁾、『中学校学習指導要領（平成29年告示）』³⁾、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』⁴⁾及び『同解説』^{5)~7)}を対象として内容分析を行った。

2. 高等学校：題材「衣生活とホームプロジェクト」の授業構想

中学校の内容との関連を考慮し、先行研究^{8)~10)}について検討し課題を明らかにした上で、高校の題材「衣生活とホームプロジェクト」の授業を構想した。

III. 研究の成果と課題

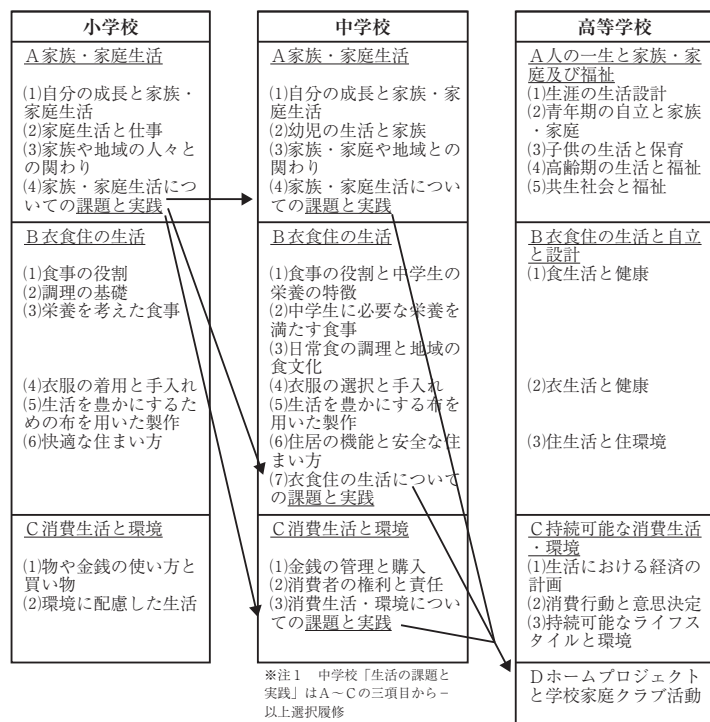
1. 学習指導要領及び同解説の分析

(1) 小・中・高校の学習内容の系統性

学習指導要領においては、小・中・高校を通じて系統性に基づいた枠組みで構造化されている。資料1に示したように、小・中学校においては、A「家族・家庭生活」、B「衣食住の生活」、C「消費生活と環境」の3つの内容に整理された。高校は、A「人の一生と家族・家庭及び福祉」、B「衣食住の生活と自立と設計」、C「持続可能な消費生活・環境」と多少表記が異なっているが、A・B・Cで取り扱う内容の枠組みは同じである。さらに高校では問題解決的な学習として、D「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」が独立した内容として示されている。また、今回の改訂で小学校では、A「家族・家庭生活」において家庭や地域と連携を図った「生活と課題の実践」に関する指導事項が新設された。中学校においても「生活の課題と実践（A、B、Cの中の三項目から一以上選択履修）」に関する内容を充実させており、高校における「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」との系統性が明確になったといえる。

以上のように、小・中・高の内容の系統性は強化されており、どの分野においても小・中学校で学習してきたことを生かしながら、高校の学習を積み重ねていくことが重要である。そのためには教師が各学校段階での学習内容

資料1 小・中・高校の内容の系統性



を把握し、系統性や連続性を児童・生徒に意識させる必要がある。また、小・中学校で取り組んできた「生活の課題と実践」を高校の「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ」に発展させ、学習した知識及び技能と問題解決的な思考を実生活で活かすことが望まれる。

(2) 中・高校の衣生活分野の関連

資料2は中学校技術・家庭科（家庭分野）及び高等学校「家庭基礎」の衣生活分野に関する「学習指導要領」の“内容”及び“内容の取扱い”に、「同解説」の“内容”を対応させて示している。

中学校の衣生活分野は、B「衣食住の生活」の「(4) 衣服の選択と手入れ」、 「(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作」及び「(7) 衣食住の生活についての課題と実践」で扱われ、高校「家庭基礎」ではB「衣食住の生活の自立と設計」の「(2) 衣生活と健康」に位置づけられている。また、各内容の各項目は、『ア』を「知識及び技能」の習得に係る事項、『イ』を『ア』で習得した「知識及び技能」を活用して「思考力・判断力・表現力等」を育成することに係る事項としており、『ア』で身に付けたことを『イ』で学習過程をふまえて取り扱うことを意識することが必要である。資料2の下線で示したように、中学校においては自分の“日常着”を中心とした衣服の選択や手入れなどの学習を行い、その上に高校では“ライフステージ”を考慮し、衣生活を営む主体として“情報収集・整理”や“計画・管理”にも目を向ける学習内容へと発展させる。このように中・高の系統性を明らかにしたうえで、学習内容の習熟度に応じた発展的な学習を授業に取り入れていくことが求められる。また、前述のように中学校における“衣生活の課題と実践”が高校における家庭や地域・社会を対象とした“ホームプロジェクト”へと展開していくことが望まれる。

(3) 家庭科の学習過程

今回の改訂においては、少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築等への対応から小・中・高校ともに資料3に示した学習過程¹¹⁾を通して習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力・判断力・表現力」を育成することにより、課題を解決する力を養うことが重視されている。

これら一連の学習過程を通して、生徒が自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする、達成感や有用感を涵養し、次の学習に主体的に取り組むことができるようにすることが重要であるといえるが、従来行われてきた1時間ごとに教師が教科書の内容を解説し知識を伝達する授業では、これらの学習過程を踏むことは難しい。教師がこのような一連の学習過程をどのように題材の中で組み立てていくかが課題といえる。そのような学習を実現するためには、まず、教師が“目指す生徒像”や“育成したい力”を明確にした上で題材のねらいを設定し意図的に教材と出会わせ、生徒に「なぜ」「どうして」という問題意識を持たせ、生徒とともに各授業において課題を設定する必要がある。

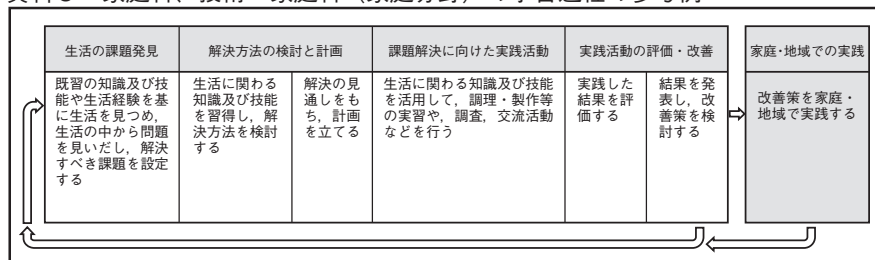
資料2：中・高校の衣生活分野の関連

中学校【家庭分野】	高等学校【家庭分野】
<p>(4) 衣服の選択と手入れ ア (ア)・衣服と社会生活との関わり ・目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択 (内容の取扱い) 和服について触れること、和服の基本的な着装を扱うこと、既製服の表示と選択に当たっての留意事項を扱うこと</p> <p>(イ)・計画的な活用の必要性 ・日常着の手入れ (内容の取扱い) 日常着の洗濯と補修</p> <p>衣服の過不足や処分、日常着(綿、毛、ポリエステル等)の手入れにかかわる性質、洗濯、洗剤の働き、種類、まつり縫いによる裾上げ、ミシン縫いによるほころび直し、スナップ付けなどの補修、ブラシかけ</p> <p>イ ・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの工夫 既製服の選択、購入に関する問題、日常着の洗濯に関する問題</p> <p>(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア ・製作する物に適した材料や縫い方 ・用具の安全な取り扱い (内容の取扱い) 衣服等の再利用の方法について触れる</p> <p>製作の見直し、目的に応じた縫い方や製作方法、再利用の方法、ミシンやアイロン等の用具の安全な取り扱い</p> <p>イ ・資源や環境に配慮した布を用いた製作の工夫 目的や再利用を検討した製作計画、製作の工夫</p> <p>(7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア ・食生活、衣生活、住生活についての課題と計画、実践、評価</p>	<p>(2) 衣生活と健康 ア (ア)・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装 ・健康で快適な衣生活に必要な情報収集・整理</p> <p>着心地のよい被服の特性、条件、社会的慣習への適応などの社会的機能、健康と安全、着心地に配慮した被服の入手から再利用や廃棄方法など、消費者として必要な情報収集や整理</p> <p>(イ)・被服材料、被服構成、被服衛生 ・被服の計画・管理の技能</p> <p>繊維(天然繊維、化学繊維)、糸、布の種類と特徴、性能をふまえた適切な被服材料の選択と取り扱い、被服の形状やゆとり、和洋服の構成、着心地と衛生、環境と人体の双方の条件に適合した被服材料やサイズ、デザイン等の選択、保有する被服の活用や補修、湿式洗濯と乾式洗濯、適切な洗濯、入手から廃棄までを考えた被服計画の必要性</p> <p>イ ・被服の機能性や快適性の考察 ・安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装の工夫</p> <p>健康・快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点から、自己と家族の衣生活についての問題</p>

※1 表中の点線囲み内は「学習指導要領解説」

※2 下線は筆者が加筆

資料3：家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の学習過程の参考例



2. 高等学校：題材「衣生活とホームプロジェクト」の授業構想

(1) 授業構想の視点

ホームプロジェクトの先行研究（安藤2005、加藤ら2011、福田ら2012）^{8)~10)}を分析した結果、学習を効果的に進める方法に関する研究は見られるものの、それまでに学習してきた題材の内容とホームプロジェクトとの関連性について検討する研究とはなっていなかった。そこで本研究では、以下に示す3つの視点から小・中・高校の系統性を生かし課題を解決する一連の学習過程を取り入れた衣生活分野とホームプロジェクトを関連させた授業を構想した。

①題材のストーリー性の重視

従来の高校家庭科の題材においては、学習指導要領や教科書の学習項目と対応させ、その順序に従った構成が主流であった。それに対して本授業では、まず“目指す生徒像”や“育成したい力”を明確にした上で、題材ごとにストーリーを持たせ、題材における各時間の学びがつながることを意識した構成を行った。これは、最終的には教科全体を通して各題材が関連性を持つことにもつながるだろう。

資料4は衣生活分野の授業構想図であり、授業時間を数字で示している。なお、指導計画は後述の資料6に示す。本題材全体を貫く問いは「快適・安全で環境に配慮した衣生活とは」である。第1、2時間めでは、衣生活における“被服の選択”を通してこれまで捉えなかった“被服の価値”に目を向けさせる。その後、第7時間めまで「生産」、「着装」、「管理」、「処分」という“被服の一生”と自分たちの生活を照らし合わせながら題材全体の問いに向かうよう構成し、第8時間めにそれらの学びを振り返る場を設定した。他方、小題材学習後にそれぞれが得た気づきや関心事がホームプロジェクトにつながる流れを構成した。

この資料4の衣生活分野の授業構想図は、第1時間めに生徒に提示し、各授業後には後述のワークシートを用いてキーワード等を記入させていく。これにより、生徒たちは衣生活の全体構造における各時間の位置づけを明確に意識し、何のための何についての学習なのか、学びのつながりを視覚的にも把握することが可能となるようにした。

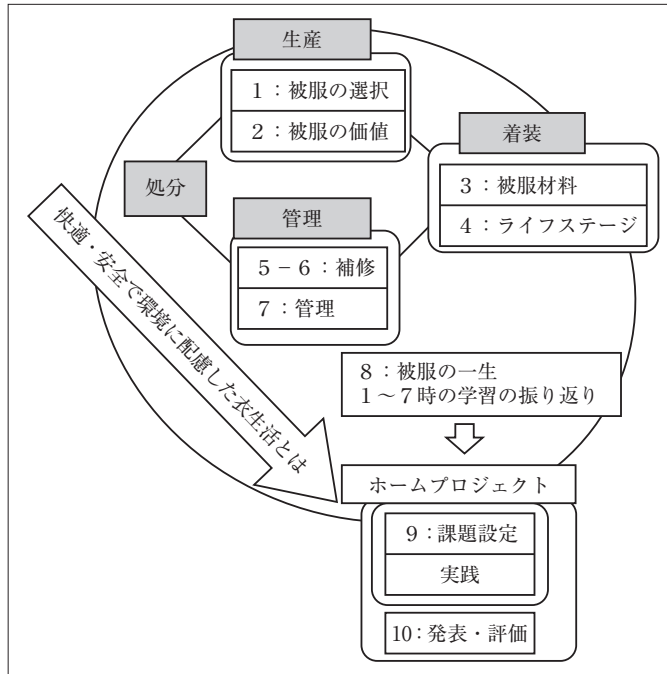
②“各授業時間における課題発見”の工夫

各小題材での課題を受動的に捉えるのではなく主体的なものとするために、各授業において生徒たちに自分の生活を見つめる場を設定し、それに対する本音を引き出すようにした。例えば、第3時間め“被服材料”においては、生徒たちが部活で着用するような身近な吸水速乾性のTシャツを使った性能実験を行う。実験を通して、性能の違いは何によるものかに目を向けて、繊維や加工の技術によって性能が異なることを実感させる。生徒に「なぜ」「どうして」という問題意識を持たせた上で、繊維についての学びをどのような生活場面で生かすことができるかを考えさせたい。また、第7時間め“被服の管理”においても、まずは、自分たちの着ている制服の手入れの方法を生徒同士で確認・共有することを通して、自分の衣生活に目を向けさせる。そして湿式洗濯と乾式洗濯の特徴をふまえた上で自分が持っている服の手入れ方法を吟味させ、管理方法を念頭に置いた被服の購入にもつなげていく。すなわち、「生産」、「着装」、「管理」、「処分」という“被服の一生”を考えた“被服の選択”が環境に配慮した衣生活につながることを生徒たちは題材全体を通して気づいていくことができるようにした。

このように各授業時間において、自分の生活を見つめることを繰り返すことを通して、自分

に引き寄せた課題発見の力を身に付けさせたい。

資料4 衣生活分野の授業構想図



注) 数字は授業時間

③ “各授業時間における振り返り” の工夫

各授業時間の振り返りに関する研究としては、伊波・山村 (2016) の「ポートフォリオ型ワークシート」¹²⁾ (以下、「P型シート」と表記) の開発がある。そこでは、以下の3点に焦点を合わせ、一連の学習を振り返らせ、次の学習や生活につなげていた。1点めは、小・中・高校の円滑な接続であり、2点めは、教師が指導したとする内容と、生徒が学んだとする内容とのずれを把握しつつ、学習者の既習状況を捉えた指導ができるようにすることである。そして、3点めは、学習内容と自己とのかかわりに学習者自身が目を向けられるよう、メタ認知的に把握できるようにすることである。ここでは、そのP型シートを資料5のように改編した。

まず、「P型シート」【表面】〔A欄：学習を始めるにあたって〕で「Q：快適・安全で環境に配慮した衣生活を送るために気を付ける（付けたい）ことを書いてみよう」と促す。これにより生徒自身がこれまでの衣生活との関わりを意識するとともに、教師も中学校までの既習内容の定着度を把握することが可能になる。その後、毎時間の学習後に【裏面】を記入させるが、先行研究では、「本日の私のキーワード」及び「特に大切だと思ったことや印象に残ったこと」の記入欄を時系列で配置していたのに対し、本授業では本時の学びと全体との関連を意識させるとともに、実践への意欲につなげることを意図して資料5の【裏面】のような内容とした。第1時間めに生徒に示した衣生活分野の授業の構想図に対応させ、㊦「本日の私のキーワード」と㊧「これから知りたいことや生活につなげたいこと」の記入項目を配置した。これにより、生徒たちは衣生活の全体構造における各時間の位置づけを意識しながら、学びが蓄積されていくイメージを持つことが可能となる。また、それぞれが感じた㊧「これから知りたいことや生活につなげたいこと」が第9時間めのホームプロジェクトの課題設定に生かされる。さらに、

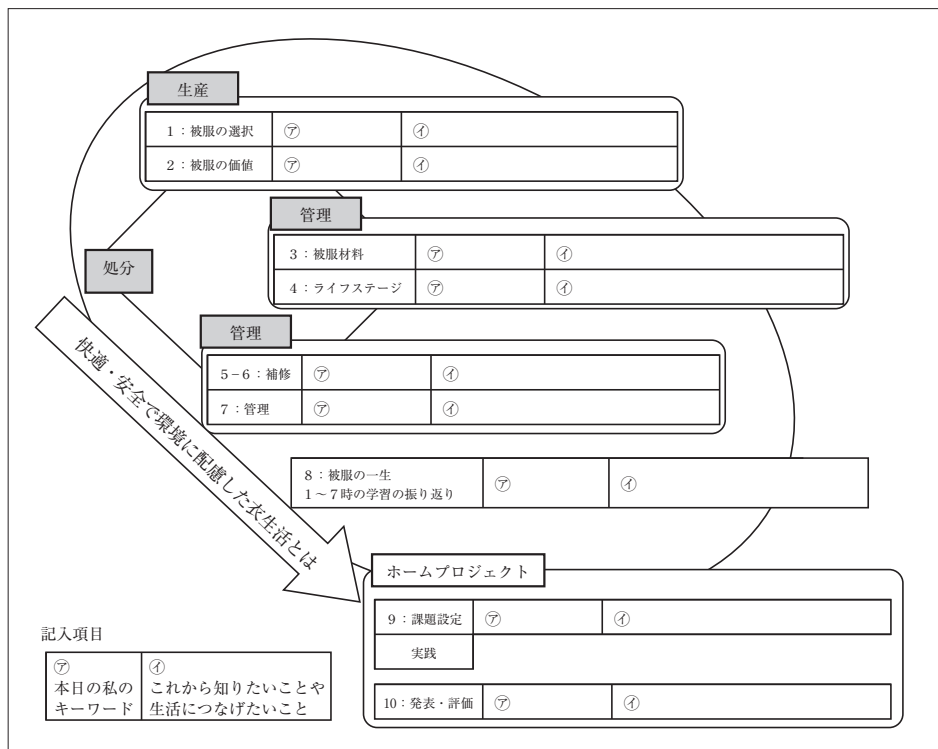
題材終了後は、再び【表面】に戻り、先行研究と同様に〔A欄〕と同じ問いの〔B欄〕を記入させ、それらを比較させる（〔C欄〕）ことで、授業を通して生徒自身がどれほど“自己との関わり”において、学習内容を捉えられるようになったのかを見つめることができるようにした。

資料5 題材「衣生活とホームプロジェクト」での「P型シート」

【表面】

<p>衣生活をつくる</p> <p style="text-align: center;">1年()級()番 氏名()</p>	<p>〔B. 学習を終えて〕</p> <p>Q. 快適・安全で環境に配慮した衣生活を送るために気を付ける（付けたい）ことを書いてみよう</p>
<p>〔A. 学習を始めるにあたって〕</p> <p>Q. 快適・安全で環境に配慮した衣生活を送るために気を付ける（付けたい）ことを書いてみよう</p>	<p>〔C. 学習を振り返って〕</p> <p>Q. AとBを比べて、自分がどのように変わったか、気づいたことや考えたことはありますか。</p>

【裏面】



(2) 題材の指導計画

題材「衣生活とホームプロジェクト」の指導計画を資料6に示す。全10時間の一連の学習過程を「快適・安全で環境に配慮した衣生活とは」の問いで貫き、各時間のつながりやストーリー性を重視した計画とした。また第1時間めから8時間めまでの各授業の中で、一貫してホームプロジェクトを意識させ、課題解決に必要な知識及び技能を学べるようにした。

資料6 指導計画

時間	小題材名	ねらい
1	被服の選択	被服の持つ機能を理解し、自分にとって必要な被服について考え、被服選択の課題を見いだすことができる
2	被服の価値	被服になるまでを理解し、被服の価値について考え、これまでの衣生活を振り返り課題を見いだすことができる
3	被服材料	身近な繊維製品に関心を持ち、被服材料について理解し、適切な被服材料の選択ができる
4	ライフステージ	ライフステージに応じた安全で健康的な被服の選択に向けて工夫することができる
5-6	被服補修	日常着の補修の技術を身に付ける
7	被服管理	湿式洗濯と乾式洗濯の特徴を理解し、表示などに基づいた適切な手入れができるようになるとともに、手入れを考慮した被服計画を考えることができる
8	被服の一生とホームプロジェクト	これまでの学習や生活を振り返り、安全で健康や環境に配慮したよりよい衣生活の実践につなげることができる
9		ホームプロジェクトの課題を設定し、その解決方法について考える
10		ホームプロジェクトの実践について共有し、実践を振り返る

(3) 指導過程の工夫(例：第1、2時間)

第1時間めの“被服の選択”では、資料6に示したように「被服の持つ機能を理解し、自分にとって必要な被服について考え、被服選択の課題を見いだす」ことをねらいとしている。その指導過程を資料7に示した。まず、★1においてこれからの学習の見通しをもたせるために、「衣生活分野の授業構想図」(資料4)を用いて全体の流れを示す(授業構想の視点①)。その後、P型シーートの【表面】の〔A欄〕に「快適・安全で環境に配慮した衣生活を送るために気を付ける(付きたい)ことを書いてみよう」を記入させ、現在の衣生活の捉え方を意識させる。その上で高校卒業以降に着用する被服について考えさせ、★2から★4において、被服の選択をするときに何を重視するかランキングをつけさせる。生徒たちは、グループ活動を通して他者との違いからこれまで意識したことのなかった自分の衣生活の側面に目を向けることになろう(授業構想の視点②)。さらに被服の持つ保健衛生上などの機能のほか、気持ちを前向きにしたり引き締めたりするなど精神面から被服の持つ力を捉えることで、ライフステージにおいて被服の持つ意味にも目を向けさせたい。その後★3で、これらの被服の多くはバングラデシュをはじめとするアジア諸国から輸入されていることに関連する映像を視聴させることで、後述の第2時間めの“被服の価値”に目を向けさせストーリー性を持たせる展開とした(授業構想の視点①)。

資料7 第1時間めの目標及び指導過程

8. 本時の目標 (1/10)

被服の持つ機能を理解し、自分にとって必要な服について考え、被服選択の課題を見いだすことができる

9. 指導過程

	学習活動及び学習内容	指導上の留意点 (●形成的評価、○総括的評価)	資料・準備
10分	1 単元の目標の確認 2 P型シートの説明を聞く 3 単元学習前の考えを記述する 快適・安全で環境に配慮した衣生活を送るために気を付ける (たい) こと	・全体の学習に見通しを持たせる ・P型シートの記入 ・これまでの生活や中学校までの既習事項を思い出させながら記述させる	衣生活分野の授業構造図 P型シート【表面】 [A欄]
15分	3 高校卒業以降の被服について考える (1) 高校卒業後、毎日着る被服が必要になります。あなたならどんな被服が着たいですか。 〈考えられる答え〉おしゃれ、かっこいい、シンプル、周囲と合わせる、個性的 (2) 被服を選ぶときに重視する項目を考える 〈考えられる答え〉価格、見た目、流行、機能性、着心地、合わせやすさ、ブランド、サイズ ・意見の出なかったものも加え、整理する (3) ランキングとその理由を考える (4) いくつかを共有した後、グループで協議し、発表する	・卒業後の生活において必要なものを思い起こさせる ・高校卒業後の生活のイメージを膨らませ、何を着ようか、何着用しようか、というような状況を想像させる ・被服は生涯において必要なことをおさえる ・意識したことのなかった項目にも気づかせる ・自分の重視していることを可視化し他者に表現させ、他者との違いに注目させる	ランキング表 ランキングしてみよう
10分	4 被服の持つ力を考える ○どんな気持ち ・事例1：気に入っているおしゃれな被服を着る ・事例2：彼と会う時に彼好みの被服を着る 〈考えられる答え〉 例1：誰かと会いたくなる、出かけたくなる、自信が持てる、堂々とできる、自尊心を持てる 例2：彼が喜んでくれると嬉しい、彼がどう思うか気になる	・保健衛生上、生活活動上、社会生活上の機能を確認する ・事例をもとに、被服によって気分が前向きになる、気が引き締まる、やる気になった経験はないか、振りがえさせる	
10分	5 これからの衣生活を考える ・現代の衣生活における問題を知る～The True Costの視聴～ ・どのような問題が起きていたか、またその原因は何かを考え、意見交換する ・日本の衣類の輸入浸透率や日本の繊維製品輸入先を調べる	・流行がつけられる仕組みについて触れる ・自分たちの被服が関わっていることに気づかせる	https://youtu.be/tR5giBWTpX8 (2分) ユナイテッドビープル 大修館 p.213
5分	6 本時のふりかえりとまとめ ・振り返り 被服の購入において自分の問題は何か振り返ってみよう ・本日の私のキーワード等を記入する	●思 (ワークシート) ・自分にとって必要な被服について考え、被服選択について課題を見いだしている	P型シート【裏面】 1㊦㊧

★1

★2

★3

★4

第2時間めの“被服の価値”では、「被服になるまでを理解し、被服の価値について考え、これまでの衣生活を振り返り、課題を見いだす」ことをねらいとした。ここでは、これまで被服は購入するのが当たり前と思っている生徒たちに、この被服は誰がどうやってどのような想いで作っているのかに目を向けさせたい。そのため、まず千切ったティッシュペーパーを繊維に見立てて繊維から糸を紡がせ、資料8のワークシート★5へも記入させる。生徒たちは繊維を撚ることで糸となることを実体験し、さらに、布の観察を通して自分たちの着ている被服が計り知れないほどの“糸”や“織り”から成り立っていることに目を向けるだろう。このような過程を経て、生徒たちは被服の生産に大変な労力がかかっていることに気づく。このことが第1時間めの映像と重なり、これまで自分が買ってきた被服はどのように作られたのかということに関心を持ち、社会における様々な問題を自分に引き寄せて考えることができるようになるだろう（授業構想視点①、②）。このような体験を自分の衣生活への振り返りにつなげさせたい（★6）。

以上のように、各授業の指導過程においても、先述の授業構想の視点を反映した指導をめざした。

資料8 第2時間めのワークシート

1年次（ ）級（ ）番 氏名（ ）

1 その被服はどこでできているのか
 制服のシャツにはどんなことが書かれているか調べよう
 ①自分の着ている制服のシャツの表示を見つけよう
 ②組成表示 原産国表示

		産
--	--	---

何の?

2 その被服ができるまで
 (1) 糸

生じる違い	(S・Z) 撚り	
	甘撚	強撚
強さ		
太さ		
風合い		

★5

植物の綿は短繊維（ステープル）で構成され、撚りをかけることで糸に加工される。これを紡ぐ（または製糸）という。

(2) 布
 布の織り方を拡大し、観察しよう

糸密度（段/cm）
 たて（ ）
 よこ（ ）

（ ）織	

制服のシャツに必要な布はこの何倍くらいだろうか？

(3) 【今日の振り返りのテーマ】服の価値について考え、自分の衣生活を振り返ろう

★6

3. 研究のまとめと課題

今回、学習指導要領及び同解説を分析し、小・中・高校の家庭科、特に衣生活分野の関連及び家庭科の学習過程について検討した。その結果、小・中・高校の内容の系統性は強化され、どの分野においても小・中学校で学習してきたことを生かしながら、高校の学習を積み重ねていくことが重要であること、並びに小・中学校での“生活の課題と実践”を高校“ホームプロジェクト”に発展させていく必要性が明らかになった。

これらの分析をふまえて“めざす生徒像”を明確にした上で「衣生活とホームプロジェクト」の授業を構想した。授業構想にあたっては、以下の3点すなわち、「①題材のストーリー性の重視」と「②各授業時間における課題発見」及び「③各授業時間における振り返り」の工夫を視点とした。これらをもとに授業構想図を作成し、小題材の関連性を明らかにするとともに生徒に提示することで、これまでの学びの系統性や連続性を意識させようとした。さらに、このように一連の学習に課題発見の過程を繰り返し組み込むことで、題材での学びや課題意識をホームプロジェクトにつなげることが可能になるといえる。

今後、家庭科の本質や独自性を教師自身が明確に捉えた上で、各分野のつながりをふまえた題材計画や年間指導計画を構想し実践していくこと、及び生徒が無意識に過ごし、当たり前と考えている“生活”に対して目を向けさせる授業づくりの追求が重要である。また、小・中・高校の連携の中で、それぞれの校種における家庭科の実態を把握し、指導方法や題材等についての情報を共有して授業構想に生かしていく必要がある。

IV. 注・文献

- 1) 文部科学省. 2018. 高等学校学習指導要領 (平成30年告示), 20. 東山書房
- 2) 文部科学省. 2017. 小学校学習指導要領 (平成29年告示), 136-141. 東洋館出版社
- 3) 文部科学省. 2017. 中学校学習指導要領 (平成29年告示), 136-143. 東山書房
- 4) 前掲書1), 181-184
- 5) 文部科学省. 2017. 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 家庭編. 東洋館出版社
- 6) 文部科学省. 2017. 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 技術・家庭編. 開隆堂
- 7) 文部科学省. 2018. 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 家庭編. 教育図書
- 8) 安藤美紀子. 2005. 高等学校家庭科ホームプロジェクトに対する課題: 家庭科主任の意識を通して. 日本家庭科教育学会誌, 47 (4), 346-357
- 9) 加藤敦子・甲斐順子. 2011. 高等学校「家庭基礎」におけるホームプロジェクト指導法に関する研究: グループ学習を用いたテーマ設定の効果. 福岡教育大学紀要第5分冊芸術・保健体育・家政科編, 60, 183-190
- 10) 福田恵子・後藤真理. 2012. 実践的推論を導入した問題解決学習の効果. 日本家庭科教育学会誌, 55 (3), 150-160
- 11) 前掲書7), 16
- 12) 伊波富久美・山村季代. 2016. 小・中・高校の学びをつなぐ「指導記録用紙」と「ポートフォリオ型ワークシート」の開発－住生活の内容を例として－. 宮崎大学教育学部紀要, 91, 11-25